

WIND FROM ZENO

# ふれあい

社会福祉法人「ゼノ」少年牧場

2023.1.31 No.169

〒720-0311 広島県福山市沼隈町草深 1212  
TEL(084)987-0357 FAX(084)987-3185

発行人 寶子丸 周吾 編集 ふれあい編集委員会  
題字 大楽 華雪(毎日書道展評議員・審査員)

2023 (令和5)年度を迎えて

理事長 寶子丸 周吾

新年おめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

うさぎは、坂を上ることが得意で素早い動きとジャンプ力があることから、物事が良い条件でとんとん拍子に進んでいく様を「うさぎの上り坂」という言葉で表し縁起の良い年とされているようです。

3年もの長い間、新型コロナウイルスとの闘いが続き、子どもたちや利用者の皆様に窮屈な生活を我慢していただきながら過ごしていたできました。現場を支えてくれている職員については、何度も何度も押し寄せてくる見えないウイルスに立ち向かい心身ともに疲弊する中で働いていただきました。改めて感謝したいと思います。

2022年を振り返るとコロナ禍にありながらも少しずつ日常を取り戻し、光が見え始めた年であったように思います。2019年度から取り組んでいるベトナムでの事業もようやく前に進んできて、明るい報告ができそうです。

現在、日本においては超少子高

齢化という大きな課題にそれぞれの国民がどのように向き合うかが問われているように思っています。

とりわけ少子化の問題は、2015年に政府が想定していたスピードよりも8年早く進んでいるという数字が報告されました。今年生まれた子どもたちが20年後に成人し、働き始める頃は、今以上に人手不足が深刻な状況になっていることが容易に想像できます。福祉の仕事は、ロボットではできない仕事が多く、これからは外国人の方にも助けていただきながら仕事を進めていかなければ事業を維持できない時代が目の前に来ています。これから法人を支えてくれる若者や子どもたちが困らないように知恵を出し合い、今できることを精一杯進めていきたいと考えています。

「うさぎと亀」の昔話から「うさぎの昼寝」という諺で油断をしていると思わぬ失敗を招きますよ。という言葉があるように、縁起の良い年こそ油断せず歩んでいきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

くお願い申し上げます。



## 社会福祉法人「ゼノ」少年牧場

### 法人創立60周年記念誌の発刊

放課後児童デイサービスセンター「らいず」管理者 吉田崇

この度、社会福祉法人「ゼノ」少年牧場が創立60周年を迎えるに際し、60周年記念誌編集委員として記念誌の発刊に携わらせて頂きました。

50周年からの10年間で、沼隈・神辺地区だけでなく、松永地区や岡山県の井原地区にも事業所を開設し、子どもの未来を応援する未来も笑おうプロジェクトや、ハートフルフォーラム・ゼノといった地域公益事業にも着手。国内の超少子高齢化に伴う人財不足に対応するために国際事業部を開設する等、この10年の歩みを改めて振り返るいい機会となりました。

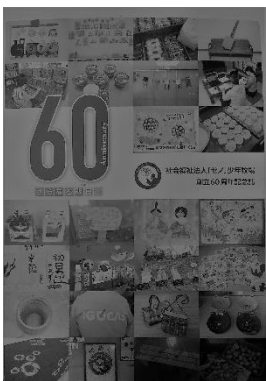
記念誌のレイアウトから、内容の検討等、初めは本当に期限内に記念誌の発刊が出来るのだろうかという不安な気持ちもありました。編集会議を重ね、様々なアイデアを出しながら、各施設、事業所の職員の皆様からの原稿が集まってくるにつれて少しずつ形になっていく過程を経て、不安な気持ちも薄

れていきました。

記念誌の編集は大変な作業でしたが、様々な原稿に触れることで改めて60周年の重みを感じる事が出来ました。原案を得て実際に60周年記念誌を手にとった時は感慨深い思いとなりました。

次の10年の節目に向け、世界の在り方はまた大きく変化していくかもしれません。どのような変化が起こっても、原点であるゼノ・ゼプロフスキー修道士の「人間是れみな同じ」の教えと法人訓である「明日を信じ 限りなき前進をしよう」の言葉を忘れずに法人の歴史を繋いでいきたいと思います。

最後に、記念誌の制作・編集にあたり、お忙しい中、原稿をお寄せいただきましたすべての皆様から感謝を申し上げます。



## 助成事業の御礼

ゼノこぼと園 園長 神谷さとみ

ゼノこぼと園は、今年度も多くの助成事業、ご寄付、ご奉仕をいただきました。みなさまに支えていただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

今年8月、公益財団法人 日母おぎやー献金基金様の助成をいただき、園バスを新しく買い替えることができました。おぎやー献金様には、12年前の「ゼノこぼと園の空調システムの整備に続いてお世話になりました。誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

新しいバスはブルーと白のツートンカラー、大きな文字で『ゼノこぼと園』とあり、どこを走っていてもよく目立つかわいいバスです。これまでのバスは、平成9年から24年間走り続け、なんと40万キロも！地球を10周したことになります。これからは新しいバスが、福山への送迎に、また療育で海へ山へと活躍してくれることでしょう。

次に、11月20日に行われた、福山ピースライオンズ様のチャーターナイト「7周年記念例会」にご招待いただき、多額のご寄付を

頂戴いたしました。



子どもたちに  
大人気!!



ピースライオンズ様には、結成以来毎年ご寄付をいただき、子どもたちの遊具や教材につかわせていただいています。今回は、三輪車を購入いたしました。三輪車での園庭ツーリングが、子どもたちの自由遊びの楽しみの一つになります。誠にありがとうございます。



また、12月3日には、JFE地域連携会(CR会)のみなさまにより、環境整備活動ボランティアが行われました。毎年6月と12月に行っていたとき、大変助かっています。  
今回は、園庭のブランコのペンキ塗り替えと溝掃除をしていただきました。見違えるようにきれいになり、子どもたちも「ブランコの色が変わった!」新しくなると「!」と大喜びです。本当にありがとうございます。ありがとうございました。  
このように、皆様に支えられて今のこぼと園があることに、心から感謝申し上げます。  
今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

ピッカピカの  
ブランコ ☆三



公益財団法人 日母おぎゃー献金基金 様  
ピースライオンズ 様  
JFE 地域連携会(CR会) 様

ありがとうございました!!



**Come 叶夢ハウス 通算100回目の開催**  
**未来(あした)も笑おうプロジェクト 担当 佐藤勝則**

2017年7月23日、ゼノ「少年牧場の社会貢献事業として、第1回目の未来も笑おうプロジェクト」Come 叶夢ハウスがスタートし、2022年11月13日の開催で通算100回目を迎えました。毎月2回(第2・第4日曜日)開催し、現在6年目に突入しています。途中、コロナウイルスの流行があり、中止せざるを得ない期間が続きました。特にこの2年間は、提供する私たちも、利用する子どもたちも不安を抱えた日々が続きました。連携機関と子どもたちの状況確認をしながら1日も早い再開をと考え、昨年は対面での食事からお弁当の持ち帰りに変更し、少しでも子どもたちと触れ合える環境を作りました。そのような開催・中止を繰り返しながら、今年の10月から従来通りの対面での食事を再開し、先日11月13日に通算100回目の開催となりました。一つの区切りではありますが、これも一つの通過点として200回、300回と続けて行くことが大切だと考えます。

ここで少し、皆様にこの5年間の思い出を紹介させていただきま

す。  
 第1回目のスタート時は、子どもは3名の参加でした。中学2年生女子、中学1年生女子、小学4年生男子の3名に、私たちがスタツフは実に12名(ゼノ職員6名、社協等4名、ボランティア2名)で迎えました。今から考えれば、子どもたちにとっては実に居心地の悪い空間だっただろうと思います。(笑)

当時は、一人でも多くの子どもたちに来てもらおうと、関係機関の方々と学校や家庭を訪問したり、パンフレットを作って公民館等の学習会に参加させてもらったりしていました。本場に多くの方々に助けていただきました。

そんな中で、私たちCome 叶夢ハウスが一番大切にしてきたことがあります。

それは、子どもたち一人ひとりの誕生日のお祝いです。豪華なことは出来ませんが、誕生日は本人のリクエストメニューとし、みんな

でケーキを作り、みんなでお祝いをしています。少し大袈裟かもしれませんが、子どもたちに「自分は生まれて来て良かった、自分にも居場所があるんだ」と感じてもらえること、そして「人を想う心を養ってほしい」と願い、誕生日のお祝いを続けています。



**すっぴい上手!**



**楽しい楽しい**  
**盛り付け♪**



あれから5年が経ち、当時14歳だった少女は19歳になり、今年度定時制高校を卒業します。他の子どもたちも中学校や小学校の卒業や進学、就職を迎えます。子どもたちの人数も3名から25名(登録人数)となり、毎回10名から20名くらいの参加があります。

この5年間で、子どもたちは随分成長しました。身長が30センチ

以上伸びた子もいますし、お化粧をするようになった子もいます。このように見た目の成長もあります。心が、それ以上に「心の成長」を感じています。

中学生が小学校低学年の子どもたちに食事の声かけをしたり、遊び相手やケンカの仲裁に入ってくれたりするようになりました。また、自分の進学や就職についての相談をしてくれるようにもなりました。素晴らしい成長だと感じています。また、子どもたちがいろいろな面で成長してくると、お母さん方の悩みや相談内容も変わってきます。これもまた、人生の中で必要な通過点だろうと思います。

よつて、私(Come叶夢ハウスでは監督と呼ばれています)の仕事も、子どもたちの進路相談や、お母さん方の何でも相談係へと少しずつ変わってきました。

100回を超え、6年目に入ったCome叶夢ハウスですが、これからも子どもたちの居場所」として、そして「お母さん方の一息出来る場所」を付け加えて、次は200回開催を目指して行きたいと思えます。どうか皆様のご理解・ご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

## 100回目の開催

これからもその日・その時を大切に



## 日本語教室卒業式

国際事業部 国際業務担当事務員 高橋潤

令和4年12月14日(水)、ダナン市障がい者・孤児等保護協会にて、日本語教室の卒業式を執行了いました。

この教室は令和3年12月6日に11人の生徒を迎えて開設いたしました。当初は新型コロナウイルスの影響でベトナムへ行くことができず、オンラインで授業をしておりました。なんとか遅れを出さないよう、スマホアプリを使った自主学习や、ホワイトボードの代わりに文書作成ソフトを利用して授業の内容をそのままWEBサーバに残し、後で好きな時間に振り返りができるようにする等、国際事業部の職員でアイデアを捻りだしながら授業を進めてきました。そして途中4か月程は現地でも実施することができました。

生徒の皆さんはこの1年間、仕事をしながら、学校へ行きながらこの教室へ参加され、日常ではいつも単語帳を持ち歩いたり、ノートにびっしり練習したりと、たゆまぬ努力を積み重ねられていました。家庭の事情やご自身の病気の問

題等で残念ながら日本語教室を辞めざるを得ない方がおられました。最終的に5人の方が12月4日に実施された日本語能力試験に挑まれ、この度の卒業となりました。

卒業式にはロン理事長を始めとするダナン市障がい者・孤児等保護協会の方々や、各関係者の皆様のご出席をいただき、当法人からは寶子丸理事長・原口理事・村上園長・国際事業部の職員が出席いたしました。また、テレビ局の方も来られ、当日のニュースで放送していただきました。

式では日本と同じように卒業証書授与等を行いました。皆さんの方々からのお祝いのお言葉をいただき、厳かというよりも和やかな式でした。卒業生の皆さんからは、この1年間の成果として日本語でメッセージを作成し、何度も練習をして当日伝えてくれたことは本当にうれしく思いました。また、ベトナム障がい者・孤児等保護協会より「ゼノ」少年牧場へNGO活動としての功績を称える





賞状までいただき、感謝の念に堪えません。  
 一旦は卒業という形で区切りをつけましたが、これから日本で働きたいと希望する方には会話能力の向上や福祉に関する勉強を進めつつ、在留資格取得の手続き等の支援を続けていきますし、もし日本語能力試験に落ちてしまった場合でも、次の試験に向けて授業を継続する予定です。  
 卒業された皆様が日本で働き始めるまで、各種手続き等まだまだ初めてのことが多く、困難なことも出てくると思いますが、皆様のお力をお借りしながら一つひとつ邁進していきたいと思えます。



**記念撮影!**



# 松永東保育所 運動会

松永東保育所 保育士 檀上幸恵

10月1日(土)に松永東保育所の運動会を行いました！新型コロナウイルスの感染拡大の心配もありましたが、1〜5歳児全員で予定通り行うことができました。小さいクラスはお家の人と一緒にサーキットをしました。お家の人が一緒にいるため涙を流すこともありましたが、終わつた後は笑顔満点で「頑張ったよ」という顔はみんなを笑顔にさせる魔法でした！大きいクラスはそれぞれの成長に合わせて担任が考えて組体操をしたり、フープをしたりしました。子どもにもどうやったらわかりやすく伝えるのか、メンバーの配置はどうするのか、曲はどうするのか全一から考えることは大変ですが、完成したときの達成感はいかがえのない思い出になりました。

私が担任するぞう組(5歳児)は竹馬や組体操、リレーと盛りだくさんの運動会でした。4月から取り組んできた竹馬は保護者にとつても、子どもたちにとつても見せ場でした。練習ではうまくいかないことにしんどさを感じ、竹馬を遠

ざける子どもたちもいました。ですが、頑張っている友だちを先生役になることで支え、できた時には一緒に喜んだり、何度か挑戦することで、できる距離が一步増えることを友だちが褒めてくれたりすることで、竹馬を楽しむ姿が見られました。私はその姿を見て、友だち同士のつながりの大切さを感じる事ができました。できなくて諦めていた子どもが「先生もう一回する」や「今日も竹馬していい？」の言葉を言ってくれたときはとても嬉しかったです。

運動会を終えて、私はぞう組のみんなから人と人とのつながりの大切さを教えてもらいました。一緒に頑張る仲間の大切さ、家に帰ると応援してくれる家族の存在、頑張る姿を認めてくれる保育者、子どもたちはその温かみを感じながら、日々努力を惜しみませんでした。

その姿は、私にとつて忘れられない姿です。忙しい時間に苦しみもがいた時間を忘れずに、これからもたくさんの人と関わり楽し

い時間を過ごして行って欲しいです。



うんどうかい  
たのしかった！



# フィールドスタディによる職場体験の受け入れ

法人事務局 事務局長 池田真吾

株式会社マイナビが運営するマインビOCUSは、将来を担う中高生がこのプログラムを通してサプライチエーンを学び、地域の産業構造や企業と社会との繋がりなどを学ぶことで、自分自身を見つめる総合探求の機会を提供するものです。

当法人としても一人でも多くの若者が、日本の社会保障を支える人材として社会福祉に興味・関心を抱き、そして理解を深める学びの場として活用していただきたいと、初めて受け入れを行ないました。

10月から11月にかけて近隣の3校の中高生25名を延べ4日間かけて受け入れをさせていただきました。日本の社会福祉施策や当法人のあゆみ、活動内容、社会課題に対する取り組み状況などをお話いたしました。

生徒さんにとっては聞きなれない制度や仕組みなどの説明が理解しにくいものであったと思いますが、実際に法人が行なっている事業や取り組みなどに話が及ぶと反応

にも変化が出てきました。とりわけ、虐待や貧困というキーワードに対しては具体的な質問も挙がるなど、彼らの関心度の高さが明らかでした。

さらにはSDGsの取り組みに関することや人財不足に対する法人の取り組み、グローバルな社会への対応についてなどこちらが困惑するような質問もあり、中高生の社会課題に対する意識も伺い知る機会でもありました。

それぞれ半日という短時間な受け入れではありましたが、参加してくださった生徒さんが障がい者福祉や児童福祉、さらには地域福祉のごく一部を知ること、身の回りに存在する福祉課題に目を向け、自身が役立てることをそれぞれが探求してもらええるきっかけとなれば幸いです。そして、日本の社会保障を支える大切な人財として、立派に成長されることを切に願うばかりです。

# 久しぶりのイベント販売参加(第2回福山ハロウィンマラソン)

ゆめサポート・バク JOBプラスはんど

ゆめサポート・バク 副主任  
目標工賃達成指導員 木村英信

「おいしいの聲がやっぱり励みになります。」

2020年1月に国内で確認された新型コロナウイルスの猛威は私たちの就労支援の取り組みも大きく変えてしまいました。あれから2年半、法人内部の事業所などへ訪問させていただき細々とイベント販売を継続してまいりましたが、私達が作ったジェラートをお客様に直接届け、生の声を聴く機会は奪われてしまいました。

コロナ禍前は年間15件以上のイベントに参加させていただき、ジェラートをお届けさせていただくことができていただけに、久しぶりの大きなイベントでの販売と言うことで一抹の不安もよぎる中、当日を迎えました。

今回お邪魔したのは、第2回福山ハロウィンマラソン(10月23日開催)です。福山市を中心に活動するマラソン主催団体 FION

E(輪) PROJECTが企画されたものです。

当日は天候にも恵まれ多くのランナーが仮装し会場を賑わせている中で、多くの方にアルコジャーノのジェラートを購入していただきました。ランナーの方やステージに出演された方とのやり取りで、対面販売ならではの良かったなと感じる会話がありましたので紹介させていただきます。何を売っているんですか?ジェラート?美味しいそう!後で買いに来ます!前に別のイベントで食べたことがありますよ!ぎっつき食べたミルクと八朔が美味しくて他のも食べたくてまた来ました!など嬉しい会話が多くありました。

この度は感染症対策の為、職員のみで販売を行いました。利用者さんとの販売再開に向けて検討・調整しているところです。また何処かのイベントで利用者さんの笑顔とアルコジャーノのジェラートを味わってみてください。



J O B プラスはんど

生活支援員 山田隆成

2022年10月23日(日)に芦田川のかわまち広場で行われた第2回ふくやまハロウィンマラソンの出店に職員3名で参加しました。

新型コロナウイルスの影響により、なかなかイベント販売に出られず約1年ぶりの出店となりましたが、天候にも恵まれ、感染症対策にも気を付けながら無事販売を終えることが出来ました。

ハロウィンマラソンの会場は、マラソンだけでなくZUMBAやボクササイズなどのエクササイズや仮装を楽しむ人達で盛り上がっていました。その会場のすぐ横にバクさんと並んでテントを設営し、食品部で作っているコロッケ、アスパラメンチ、新作のじゃんからメンチ(辛いメンチカツ)、フライドポテトを販売しました。

また、イベントにはIGOCASにキッズダンスを習いに来ているお子さん達も参加され、元気にフィットネスエリアでダンスの発表をしていました。発表後、達成感を感じて嬉しそうにしているお子さんや保護者の方々を見ていると、毎週教室に来ていた姿を見ているから

こそ感じるものもあり、IGOCASが地域の子どもたちの役に立っていることに私も嬉しさを感じました。

コロナ禍前のような、利用者の皆さんも一緒にイベント販売に参加できる日常が早く戻って欲しいと願うばかりです。



業務効率化への取り組み

経営企画室 渡辺博愛

はじめに

IT・ICT・AI、など英語表記が飛び交う昨今。覚えるだけでも大変ですが、将来的な人口減少・労働力不足の予測をもとに、労働分野ではこれらに備えるべく対応が進んでいます。IT・ICT・AIを取り入れての業務の効率化はその最たるものということになりますが、現在、ゼノで進めている取り組みの一端として、①新たな電子申請決裁システム、②コーポレートカード、③2023年10月施行予定のインボイス制度への対応の3つをご紹介します。

①のシステムは2024年1月施行予定の「改正電子帳簿保存法」への備えも含めたもので、②は会社で使用するクレジットカードで、物品購入や会計処理業務の効率化とペーパーレス等によるコスト削減、③は特に法人内の就労系事業所の取引や納税に係る備え、ということになります。そして、これらを①のシステムに絡めながら進めてい

うと

いう内容で、説明すると次のようになります。

①新たな電子申請決裁システム(改正電子帳簿保存法への対応)

商取引に関する証票書類(請求書・納品書など)のうち、電子データで取得したものは電子データのまま保存することを原則とした法律です。

例えば、取引先から電子メールで請求書(PDF形式など)が送られてきた場合は、プリントアウトして紙で保存するのは基本NG、電子データのままクラウド等で保存する、というものです。メリットとしては紙ベースで保存する際の用紙代、印刷インク代、綴じるファイル代、保管場所、送る側になった場合は封筒代、切手代、郵便局へ投函に行く際のガソリン代などの手間やコストの削減効果があります。

ゼノでもこれまで紙で受領していた取引先から、今後、請求書は電子メールで送ります」といったご連絡をいただくことが増えていきます。電子データで行うメリットを踏まえてのものでしょうか、法施行後の電子データ保存はパソコンのスクリーンショット機能などを使って手作業で進めると結構な手間となるため、システムを活用して簡潔に出来るようにすることが必要と考え、既存の電子申請決裁システムから電子データ保存に対応したシステムに入れ替える動きを進めているところではあります。

同時に、これまで電子申請方式でなかった法人内の書類も新たに取り込めるようなシステムにして、紙ベースでやり取りしていた業務の効率化やペーパーレス等によるコスト削減に繋げていくという内容です。

②コーポレートカード

前述のとおり、会社で使用するクレジットカードです。こちらも例を挙げると、現金で施設用の物品を購入する場合、物品購入申

請↓決裁↓事務方は現金準備↓現場職員が現金を受け取る↓店舗で購入・支払↓お釣りやレシートを事務方に戻す↓事務方はお釣り等の精算、という流れが多いですが、カード決済の場合は、現金準備や受け取り・返却・精算といった部分が省略化され、現場・事務双方にとつて業務の効率化が図れます。

また、インターネットショッピングが普及し、ゼノでも活用してきますが、支払いでクレジット登録が出来ないと右記のように行ったり来たりと手間も時間もガソリン代などの経費のコストが掛かっています。これらの労力の削減が、子どもたちや利用者の皆さんへの保育・療育・支援・余暇活動などの時間に回っていくことを期待したいと願っています。

③インボイス制度

消費税に関する制度です。インボイスとは請求書という意味で、消費税の納付の証明となる証票書類を言わばリニューアルするという内容です。

この制度に関しては物議を醸しているのですが、施行までどうなるかは分かりませんが、制度で定められている基準に沿って証票書類の様式の整理や取引先とのやり取りを行うということになります。特にあかつき・バク・わかば・はんどの就労系事業所は商取引を行い、そこで発生する消費税を毎年顧問税理士の先生の助力をいただきながら納税しているため、必ず対応しなければなりません。

基準の1つであるインボイス認証証票書類に一番必要な事業者番号については既に取得手続きを済ませていますが、こちらも電子帳簿保存法と同様に、就労系事業所においては、取引先からのゼノのインボイス認証の取得状況や証票書類の受け渡しについての問い合わせが入ってきています。今後は、証票書類の様式の改定や取引先との確認・調整作業を就労系事業所・事務方との間で連携しながら進めていく予定です。

そして、これだけを見ると特に業務効率化とはなりません。ここに電子帳簿保存法との絡みが出

てきます。つまり、取引先がインボイス制度に沿った証票書類を電子データで送ってきた場合は電子データのまま保存する、が原則になるということです。いろいろと絡み合いながらの部分があるため、整理をしていくのに中々に時間が掛かるなあというのが正直なところではあります。

以上が現時点で進めている業務効率化の取り組みの1つです。世情や技術の進化・進歩に伴い、法制度も変化していきます。事業体や経営・運営などの状況により法制度の良し悪しの捉え方の差異はあると思いますが、いずれにせよコンプライアンスという点は外せません。一方でこうした動きへの対応にあたっては、ゼノとしてそれぞれの部署で汗を流してくれている職員の負担軽減も含めながら進めていく必要があります。

少しでも良い形になるように継続して進めていきたいと思っております。



# ふれあい 書籍紹介

## 幼保連携型認定こども園ゆめな 園長 川元信之

### やさしくわかる！ 愛着障害

#### 理解を深め、支援の基本を押さえる

著者 米澤 好史

近年「気になる子ども」が増えていると言われています。発達に課題のある子どもたちもそうですが、愛着(アタッチメント)に課題のある子どもたちも多く見られるようです。

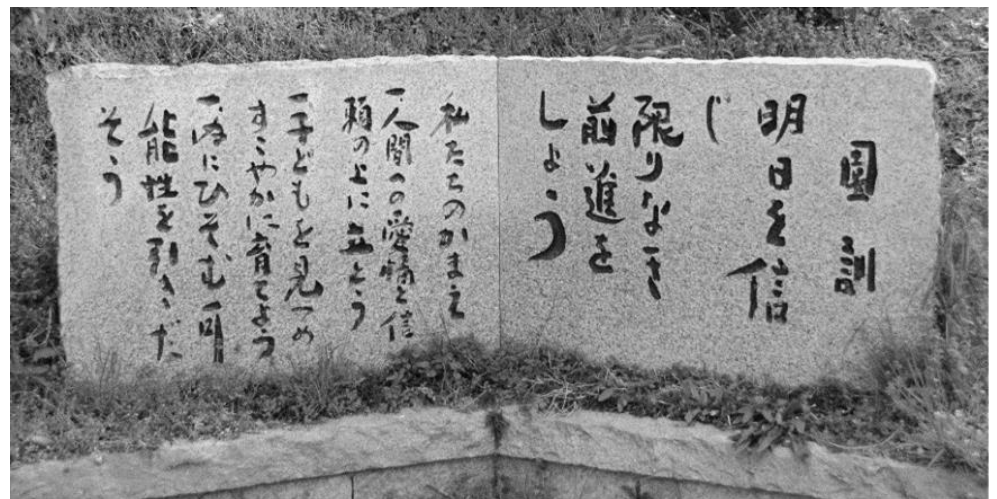
これまで愛着の課題については、子どもの育つ環境や、育て方など保護者の養育に起因する、愛着形成は幼児期に培われなければ取り返せない等、多くの誤解・間違いがあるとされています。


著者である和歌山大学教育学部の米澤先生のお話を幾度となく聞かせていただく機会があり、非常にわかりやすく学ばせていただきました。

本書では、①愛着障害の理解、②支援の方法、③発達障がいと愛着障がいを併せ持つ子の支援というくくりで構成されており簡潔で

わかりやすい言葉で書かれています。

毎日一生懸命子育てをされている保護者の中にも、良くかわり子どもとの時間を大切にされているのに、「何かうまくいかない」、「かみ合わない」といった思いを抱かれています。そのような時に本書に書かれている愛着の器のこと等をお話したりすることで、子ども自身の困り感、保護者の困り感に寄り添うことができ大変役に立っています。






**旬**

の食材いっぱい!!

## バクの手作り弁当

バクの手作り弁当は毎日食べても飽きない家庭の味。  
旬の食材を使用し、栄養バランスを一番に考えた手作り弁当です。



100%  
国産米

日替わり手作り弁当

**480**円 (税込み)

お弁当注文とお問い合わせはこちらまで

お弁当1個からOKです。宅配料無料 (配達エリア内に限る)

製造・販売 / ゆめサポート・バク

084-960-2256

# 吸い取り抜群！ 上質ウエスを販売しています

お問い合わせはこちらまで

**084-960-2256**

製造・販売 / ゆめサポート・バク

広島県福山市神辺町東中条 7301-6

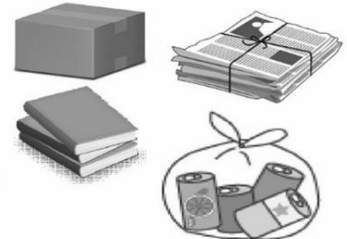


新聞・雑誌・ダンボール・空き缶

## 無料回収いたします

お問い合わせは  
こちらまで

**TEL(084)987-5810**



ゆめの木・わかば / 日中部門

福山市沼隈町大字草深 1694-1



# イタリアンジェラート アルコジャーノ

イベントへの出店、移動販売のお問い合わせ、  
ギフトなどのお申込は下記までご連絡下さい。

お問い合わせは  
こちらまで **084-960-2256**

製造・販売 / ゆめサポート・バク



www.arocogiano.jp アルコジャーノで検索

家族みんなの

## ほのぼの石けん

私たちあかつきが販売しているほのぼの石けんは、  
パームヤシオイル100%の無添加でまっ白な固形石けんです。  
皆さま安心しておつかい下さい。



◎贈答用で箱入りも  
注文承っております。

あかつき  
福山市神辺町八号951-4  
TEL: 084-965-0735  
FAX: 084-965-1595

はんど made のお店

# manomano

まあの まあの

全て手作り!こだわりの・・

- メンチカツ ——— 120円
- コロッケ ——— 80円
- ハムコロッケ — 100円
- 自家製野菜天ぷら — 時価



連絡先

広島県福山市沼隈町草深 2133-1  
TEL 084-980-7002

製造・販売 / JOB プラスはんど

### 総合福祉施設を形成するZENOGグループ

- 入所系施設
  - 【障害児入所施設】「ゼノ」やまびこ学園児童部
  - 【障害者支援施設】「ゼノ」やまびこ学園成人部、「ゼノ」なごみの家
- グループホーム
  - 【共同生活援助事業】
  - 〈沼隈地区〉
  - 「ゼノ」Home 青雲、「ゼノ」Home 白雲、「ゼノ」第3ホーム
  - 「ゼノ」あじさいホーム、「ゼノ」Home らん、「ゼノ」第2ホーム
  - 「ゼノ」わこうどホーム、「ゼノ」さくらホーム、「ゼノ」Home おおぞら
  - 「ゼノ」Home 銀河、「ゼノ」Home ジュピター、「ゼノ」Home 虹
  - 「ゼノ」第1ホーム、「ゼノ」第6ホーム、「ゼノ」ホームひだまり
  - 「ゼノ」Home 大地、「ゼノ」Home 太陽、「ゼノ」Home 未来、「ゼノ」Home 輝
  - 「ゼノ」ホームなごみ(さちの里・ふくの里)
  - 〈松永地区〉
  - 「ゼノ」Home 翼
  - 〈神辺地区〉
  - 「ゼノ」ホームたひあ、「ゼノ」ホームゆの、「ゼノ」ホームひまわり
  - 「ゼノ」ホームそよかぜ、「ゼノ」ホームせせらぎ、「ゼノ」ホームこもれび
- 居宅系事業
  - 【居宅介護事業】生活支援センターほほえみ、ケアサポートひなた
- 通所系施設
  - 【障害福祉サービス事業多機能型事業所】
  - ゆめの木・わかば、JOBプラスはんど、あかつき
  - ゆめサポート・バク
  - 【児童発達支援センター】「ゼノ」こぼと園
  - 【児童発達支援事業】第2こぼと園
  - 【放課後等デイサービス】
  - 放課後児童デイサービスセンターぶくぶく、「ゼノ」こども広場まつなが
  - 放課後児童デイサービスセンターらいず
  - 【認定こども園】幼保連携型認定こども園ゆめな
  - 【保育所】松永東保育所
  - 【放課後児童健全育成事業】ゆめな学童園
- 相談支援事業
  - 【相談支援事業】「ゼノ」こぼと園相談支援事業所
  - 相談支援事業所「ゼノ」からっと、相談支援事業所ほっぷ
- その他
  - 【診療所】「ゼノ」診療所
  - 【地域公益事業】「未来も笑おうプロジェクト」Come 叶夢ハウス
  - 【国際事業部】